

6. 事業内容	(今次期間活動内容) 活動0：プロジェクトマネジメントに係る活動 - 行政村・郡・中央省庁レベルでの調整を行う - 終了時評価を実施する 活動1：MGメンバーの母子保健知識・能力向上に係る活動 - サブ・ヘルスポスト（SHP）が実施するアウトリーチクリニック（ORC）の側面支援を行う - 低体重児を持つ母親に対する栄養カウンセリングと成長サポート活動を実施する（追加） - 母親グループのアクションメンバーに対する保健教育を実施する - 母親グループメンバーの妊婦・産後検診の受診を促進する - 母親グループ内のピア・エデュケーションを側面支援する - 対象 VDC 内において母子保健に係る各種イベントを開催する - 異なる地域の母親グループ同士の交流イベントを実施する - エンドライン調査を実施する 活動2：コミュニティにおける衛生環境整備に係る活動 - 各コミュニティが作成した「衛生環境整備計画」の実施支援を行う - 衛生施設（トイレ）設置活動の側面支援を行う - 環境衛生改善に係る啓発活動を実施する - 設置した衛生施設の利用状況についてモニタリングを行う 活動3：コミュニティ健康基金の継続的運営に係る活動 - 基金運営能力強化のための研修を実施する - 各コミュニティに対して基金運営（貯蓄・貸出・帳簿管理）の側面支援を行う - 共同組合の設立及び登録に向けた側面支援を行う - 母親グループメンバーに対して、識字・計算教室を開催する - 母親グループメンバーに対して、収入創出活動研修を実施する（削除） 本活動を行わない理由として、コミュニティ健康基金の運営において、定期的な貯蓄活動と貸出時の管理がようやく定着してきた母親グループの現状に鑑みると、収入創出活動研修は時期尚早であると判断した。グループメンバー自身で、安定した管理運営ができる体制の構築により重点を置き、継続した基金運営を支援する。 - 母親グループの活動発表会を開催する 活動4：公的一次医療機関における基礎保健サービス改善に係る活動 - SHP 管理運営委員会の能力強化研修を実施する - SHP 管理運営委員会が策定した活動計画の実施支援を行う - SHP 管理運営委員会の活動状況モニタリングを行う - ORC センターの建設をサポートする - 各 VDC における SHP の利用促進を側面支援する（追加）
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） 活動0. プロジェクトマネジメントに係る活動 - 行政村・郡・省庁レベルでの調整会議の開催

	主なものとしては、省庁レベル（1回）、郡レベル（2回）においてそれぞれ、”Project Advisory Committee Meeting”を開催した。この他、行政村及び郡レベルでは、協議内容に応じた調整会議を随時開催している。特に衛生環境改善に係る活動では、各行政レベルにおいて”Water, Sanitation and Hygiene Coordination Committee (WASH-CC)”が設立されており、同委員会と連携しネパール政府の政策に沿って進めるよう指摘を受けていることから、対象郡内で環境衛生活動を実施している他NGOを含めた調整会議も頻繁に開催されている。 - 中間評価の実施 ネパール国内におけるNGOの活動について管轄する社会福祉協議会と共同で、事業の中間評価を実施した。 評価チームは、社会福祉協議会選出の地域開発専門家1名、会計士1名及び女性子供福祉省担当官2名と、当法人プログラムコーディネーター及び事業責任者の計6名で構成された。その結果として、活動内容や予算策定において、行政機関とのより綿密かつ事前の情報共有が求められるものの、保健行政の優先課題である母子保健を対象にしており、事業全体としての妥当性は高い、との評価が得られた。 活動 1. MG メンバーの母子保健知識・能力向上に係る活動 - ベースライン調査の実施 対象 4VDC の内、新しく直接介入を始める 20 コミュニティにおける 800 世帯を対象にベースライン調査を実施した。本調査実施にあたり、ネパール人参加型地域開発専門家、統計専門家及びデータベース開発専門家を投入し、質問表やデータベースの作成、ならびにデータ解析を行い、対象コミュニティの現状について把握した。 - 母親グループに対するリフレッシャー研修の実施 先行事業から介入を継続している 16 コミュニティの母親グループアクションメンバーに対して、保健教育リフレッシャー研修を実施した（継続中）。 本活動を通じて、母親グループメンバーにおける、妊婦検診の適切な受診時期、危険兆候、接種が望ましい栄養等についての知識が定着しつつあることが確認された。他方で、特に栄養などは知識があっても食生活の改善に至っていない場合が多く、いかに行動変容につなげるかという点を考慮しながら活動を進めていきたい。 - ピア・エデュケーションの側面支援 先行事業から活動を継続している 16 コミュニティでは、継続して定期的なピア・エデュケーションを実施しており、プロジェクトスタッフが随時モニタリングを行っている。 - ORC における成長モニタリング活動の側面支援 本事業対象コミュニティ 36 ケ所の内、ORC の開催対象地となっている 8 カ所のコミュニティ、及びその他の母親グループにおいて、成長モニタリング活動を実施した。 - 母親グループメンバーに対する妊婦・産後検診の促進 母親グループメンバーの妊産婦及び産褥婦に対して保健医療機関における検診受診時の交通費補助を支給することで、検診受診を促進している。支給額は一人につき受診 1 回あたり 150NPR～350NPR で、その内の
--	---

	100NPR～300NPR がコミュニティ健康基金に積み立てられる。支給対象となるのは、WHO が推奨する 4 回の妊産婦検診と、1 回の産後検診である。 - 新規 20 コミュニティにおける母親グループの結成・再結成 ベースライン調査終了後、20 コミュニティにおいて母親グループの結成（18）及び再結成（2）を行った。 - 母子保健に係るコミュニティイベントの実施 母乳推進週間、国際エイズデー等に合わせて、コミュニティでのイベント（ラリー、小学校における絵画コンテスト）を実施した。 活動 2：コミュニティにおける衛生環境整備に係る活動 - コミュニティにおける「衛生環境整備計画」の策定 スリランカより参加型コミュニティ活動計画策定専門家を招聘し、本活動の計画・実施方法について技術指導を行った。 先行事業から活動を継続している 16 コミュニティにおいて、各母親グループが取り組むコミュニティ衛生環境改善計画を策定し、行政村レベルの WASH-CC と共有した。母親グループが策定した計画では、トイレ建設の他、飲料水ポンプや排水溝の整備、及び家畜飼育スペースの整備等も含まれていたが、WASH-CC との協議において水路傾斜の設定など高度な技術が必要とされる排水溝の建設ではなく、トイレ建設が最優先課題とされた。 - トイレ建設のための資材調達 郡レベル WASH-CC との協議により、本事業からはトイレ建設の資機材（「リング」と呼ばれる汚水タンクの外壁、便器、下水管等）を調達・供与し、コミュニティ住民が労働力を提供し、WASH-CC 調整のもと建設を行うこととなった。資機材の調達に際し、一般競争入札を通じ、地元の施工業者（リングの作製）と仕入れ業者（その他資材）の選定を行った。 1 期目の活動を通じて、1,800 基のトイレ建設にかかる資材の提供を行い、これによって対象 4 行政村の内の 2 行政村（ダモウリ、マイナイヤ）の全世帯にトイレが整備されることとなる。 活動 3：コミュニティ健康基金の継続的運営に係る活動 - 基金運営能力強化研修の実施 先行事業から介入している 16 コミュニティの母親グループの内、事業スタッフのサポートがなくても比較的スムーズに基金管理が可能である 8 コミュニティを対象に、管理手法のリフレッシュ研修を実施した。 また、新規 20 コミュニティにおいて結成（再結成）した母親グループの基金管理担当アクションメンバーに対して、基金の必要性や仕組みについての研修を実施した。 - 各コミュニティにおける貯蓄・貸出状況のモニタリング 先行事業から介入している 16 コミュニティの母親グループにおいて毎月実施している貯蓄活動について、事業スタッフがモニタリングを行っている。 モニタリングを通じて、基金が主に母子の健康維持の用途で貸し出され、期限内に返済が行われていることが確認された。貸出用途の多くは、
--	--

子どもの疾病罹患時における薬の購入費や、分娩時の搬送に係る車両借り上げ費等である。

- 新しく活動を開始した 20 コミュニティにおける基金設立

上述した研修の終了後、新規 20 コミュニティの母親グループにおいて基金を設立した。但し、20 コミュニティの内 4 コミュニティにおいては、既に女性たちが管理する基金が存在しているため、本事業においても同基金を活用することとした。

活動 4：公的・一次医療機関における基礎保健サービス改善に係る活動

- SHP 管理運営委員会の能力強化研修の実施

本活動は、ネ国保健省によって監修された、“Health Facility Management Strengthening Program (HFMSPP)” パッケージを活用し、郡保健局との連携に基づいて行われる。

将来的に、他の行政村にある SHP においても同様の研修が開催されることを見込んで、郡保健局職員が講師を務められるよう、本研修を TOT (Training of Trainer) としても活用し、人材育成と技術移転を図っている。

本研修は、①課題抽出・計画策定ワークショップ (3 日間)、②計画実施中間レビュー (2 日間)、③活動レビュー (1 日間) からなり、②は①から半年～10 カ月経過後、③は②から半年以上経過後に実施する。

2012 年 8 月～9 月にかけて①を実施し、運営体制、必要資機材、及び業務内容とその分担について等の見直しが行われ、それらの改善を目的とした活動計画が策定された。

- SHP 管理運営委員会の活動モニタリング

事業開始以降、同委員会の月例会議に事業スタッフが参加し、活動状況のモニタリングを行っている。

当初は、月例会議そのものが開催されていない状況であったが、上述した研修の①を実施してから、月例ミーティングが定期的に行われていることが確認されている。

- ハティ・バンガイ VDC における ORC センター建設

本事業計画当初、ハティ・バンガイ VDC における SHP 建物の建設を予定していたが、同 SHP をヘルスポスト (HP) に昇格させることが、ネ国保健省により決定され、これに伴い建物の規格が変更になることから、上述した活動計画において計画されていた ORC センターの建設サポートに切り替えることとした。

同センターの建設は、2012 年 10 月に一般競争入札によって施工業者が決定され、現在施工中である。

②これまでの事業を通じての課題・問題点

特に「活動 2」及び「活動 4」に関連して、以下の問題点に直面した。

- ネ国政府方針に沿って行政機関と連携して活動を行う際、中央政府と地方行政機関、或いは地方行政機関と NGO との間の情報共有が適時に行われない等の理由により、活動の調整に時間を要したことがあった。例えば、活動 4 で建設を予定していたハティ・バンガイ SHP が HP に昇格した事について、中央レベル保健省から地方行政機関に対する正式通達が遅れたことから、建設規格の変更調整が急となった。

	③上記②に対する今後の対応策 － 中央政府における政策の解釈について、関係省庁への確認を行ったり、地方行政機関と緊密な関係を維持し、より活発な相互の情報共有に努める。
--	--